

積丹っ子のみんなへ 独占インタビュー

“積丹町という宝箱のなかにいる”
“積丹町の暮らしを楽しんで！！”



積丹での経験が創作の根底

「厳選いただいた展示のコンセプトや伝えたい思いを教えてください。」

積丹町（架空の町シャクコタン）を舞台にしたオリジナル作品「漁師の角度」や、「シン・ゴジラ」、「進撃の巨人」などの映画関係、スタジオジブリの展示の仕事に関する造形物や写真、その他いろんな仕事のデザイン画などを東京から持ってきて、それらを古い積丹の記憶を残すヤマシメ番屋や海森スタジオに融合させるように展示空間を作っていました。そうすることで観ていただく方に僕がデザインや造形をするときの根底にあるのが「積丹で育った経験」なのではないかと考えられます。僕の作品は、決して多数派や万人向けではないですが、「積丹」というキーワードで楽しんでいただけたらうれいんです。

積丹町には「価値」がある！

「ヤマシメ番屋に展示されている『妖森の守』では積丹の風景と作品がリンクしていますね。」

積丹町の自然や環境には、すごく「価値」があつて唯一無二

のかけがえのないもの。積丹町での生活や「漁師」であり「猟師」でもあつた父の仕事を通じて得た人とは違う経験や体験は、僕の作品のオリジナリティや独創性の根源になっていくんです。

例えば、魚や動物を食卓でいただく前の生きている状態や死ぬところ、それを解体する手順などを目の前で見ることができたり、父が害獣とたたかっていたり、呼ばれる生物を僕の眼前で鉄砲で射殺する光景は、強く印象に残っています。当時はその経験に「価値」があるかどうかすら考えていなかったのですが、東京で暮らすようになって、自然の現象や生物の生き死にが身近にある積丹の環境は、都市生活では体験できない「普遍的な価値」があるんだと気づいたんです。それからはそのトドやアザラシやタヌキなど廃棄する部分を土に埋めてもらって、掘り出した骨を仕事や作品に使ったりするようにになりました。

「好きなこと・もの」ができたらずまず挑戦してみよう！

「唯一無二のかけがえのない積丹町に住む子どもたちに自身

の幼少期を踏まえてアドバイスをいただけませんか。」

「積丹町の暮らしを楽しみ

ながら、こつちだ！と思つた方向に行くのをためらわれないで！」と言いたいですね。みんながみんな、自然の現象や生物を観察するのが好きなわけではないでしょうけど、子どもの頃に当たり前のようにある自然豊かな環境で大人になってからその「価値」に気づくはずなんです。造形やデザインだけじゃなく、音楽や文章、写真、映像：あらゆる表現の根底に、この自然の中の体験が重要だと確信しています。

「これも、これやってみないなー」って思えるのが奇跡的なことですから、ぜひそつちに行くのをためらわず進んでほしいですね。もしかしたら、ご家族に反対されるかもですが、そこは話し合いで！」

次もまた何か新しいことを！

「ふるさと愛にあふれた心強い積丹応援団でもある竹谷さん。

また積丹町のために一緒に協力いただけませんか。そして、やってみたいことはありますか。」

「ぜひ、やらせてください！次回も、今回と違うまた新しいことを考えて、積丹町や皆さんに恩返しできれば。今パツ

と浮かんだのは、「ふるさと納

税」で積丹町の特産品であるウニや生き物、自然を生かした「何か」をこれからイメージして、その実現に向けて走り出せたら：とモウソウ中です！この作業が楽しいんですよ。（笑）

大変活躍されている方がご多忙なか「積丹町のために」と展示・イベントに尽力いただく姿に「積丹の人らしい人情と心意気を感じました。作品やアトリエ写真から技術はもちろんです。竹谷さんたちスタッフの皆さんの人柄が宿り、温かさがあふれていました。今後国内外で幅広く活躍される竹谷さんを、町を挙げて応援しましょう！」

プロフィール
【PROFILE】 たけや・たかゆきさん
昭和38年米国町出身。造形作家。美国中学校卒業まで町内に在住。1985年頃からフリーとして活動。積丹町を題材としたオリジナル作品『漁師の角度』（完全増補改訂版）を2013年に講談社より発売。現在も、映画、ゲーム、フィギュアなど様々な領域においてキャラクターデザイン、アレンジ、造形を行い、海外にも熱狂的なファンを持っている。
主な出版物 / 「腐海創造・写真で見る造形プロセス」（徳間書店）、
「漁師の角度・完全増補改訂版」（講談社）、「畏怖の造形」（玄光社）
（竹谷隆之公式 Facebook）
（竹谷隆之公式 Instagram）
TAKEYA,
takeyatakayuki.official

積丹町敬老会

～ 521 名の長寿を祝福～

高齢者の方々の長寿を祝う「積丹町敬老会」(鎌田淳史実行委員長)が9月14日、町総合文化センターで令和元年から4年ぶりに開催されました。

今年の敬老対象者は、**昭和23年9月30日以前に生まれた75歳以上の方々**です。今回は新たに36名が加わり、町全体では521名が対象者となりました。当日は総勢66名の敬老者が出席しました。

今年88歳の米寿を迎えられた27名のうち、出席された3名の方々に松井町長から祝品が手渡され、長い人生の節目を祝いました。

祝宴では、びくに保育所の園児による遊戯、婦人会の方々や敬老者自身による歌や舞踊も披露され、会場は拍手や歓声が響き渡り、大いに盛り上がりました。

出席者の方々は、友人とのつかの間の歓談と交流を楽しみ、再会を約束していました。

当日参加の最長寿者は95歳の成田チセさん(美国町)と久世文子さん(美国町)でした。

皆さんの末永いご長寿とご健康をお祈りします。

「米寿」を迎えた出席者3名



▲戸来 和子さん
(美国町)



▲新井田 孝さん
(美国町)



▲加藤 晃さん
(幌武意町)



美国婦人会「あじさい橋」



びくに保育所 アトラクション



▲園児によるアトラクションを楽しむ敬老者

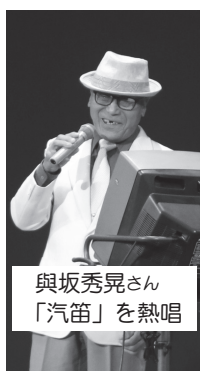
「百寿」1名 総理大臣表彰

今年度100歳を迎える、宮島ツルさん(美国町)に内閣総理大臣より表彰状と記念品の銀杯が伝達されます。

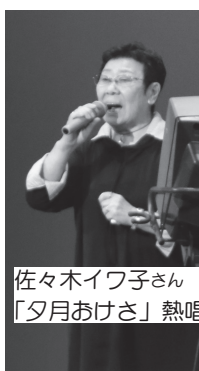
長い人生の節目を迎えられる宮島ツルさん、ご家族の皆さん、おめでとうございます。



とりは越善初江さん
「神威岬」を熱唱



與坂秀晃さん
「汽笛」を熱唱



佐々木イワ子さん
「夕月おけさ」熱唱



米寿の戸来和子さん
「花はあなたの
肩に咲く」を披露